

インド・シブプーラ小学校 チャリティー

古いおもちゃ、英語の絵本、暖かい洋服の 寄付をお願いします！

＊ インド・ラジャスタン州の東部に位置する小さな村落のシブプーラの小学校は、最低限の設備だけの公立学校です。校長をはじめ、『シブプーラ小学校』に従事している教師たちは、約100人の生徒たち(1～5年生)への通常の授業だけでなく、その生徒たちの弟妹たちの生活のケアも担っています。

こどもたちへの教育、ならびに生活環境の向上のため、みなさまからのチャリティ活動へのご協力と心からの援助をお願いいたします。

寄付の受付先:

神戸ユニオン教会(EKK)

受付期間:

2014年9月21日～10月12日

お問い合わせ:

dic-pr@nifty.com

078-414-2833

(今成 デイナ)

こどもたちの学習に必要な、絵本やシンプルな英語のイラスト入りの本が不足しています。また小さなこどもたちには教育のための玩具も必要です。まもなくインドのこの地は寒い冬を迎えます。(12月、1月の気温は神戸と同様、冬の気温になります。)多くの人が、暖かい防寒具の無い状態です。

もしご自宅にご不要の衣類や本、おもちゃがありましたら、是非、寄付をお願いいたします。

緊急に必要としているもの

- 幼稚園児向けの楽しい絵本
- イラスト入りのシンプルな英語の本
- おもちゃ (丈夫なおもちゃ、教育玩具) ※バッテリー・電源などが不要なもの
- 防寒具 子供・ならびに大人用のマフラー・ショール・帽子など
※大人の防寒具の場合、伝統的なインドの衣装の上にはおったり、着ることができるジャケット、マフラー、コート、帽子など
- インドへの物資を送る船便送料のため、現金での寄付も歓迎しています。

協力団体

- グラム・バラティ・サミティー(インド)
- ヘルプ・フォア・セルフヘルプ ラジャスタン(ドイツ)
- ドイツ・プロテスタント教会 大阪・神戸



シブプーラ小学校について

シブプーラはインド北西部に位置するラジャスタン州にある小さな村落です。社会ピラミッドの広い底は、自分の土地を持たないグループ(ヒンズ教徒とイスラム教徒)から成り立っています。

田舎の公立学校は、学校として機能していないケースが多くあります。というのも多くの教師が、田舎に赴任することを嫌がるからです。特に、赴任した教師が地元出身者でない場合、納得できる給与や条件にもかかわらず、『田舎への追放』という運命によって、義務付けられている仕事を怠るというケースが多々あります。したがって、5年生に進級した生徒でさえ、いまだに自分の名前の綴りすら書くことができないという事態がおこっているのです！そんな教育の機能不全が蔓延している中でも、それに反して、いくつかの成功例ともいえる教育成果をあげている学校もあります。

このような学校は、子どもたちへの教育に熱心な校長や教師たちによる献身的なサポートによって正しい教育へと導かれています。公立の『シブプーラ小学校』はその一例といっても良いでしょう。学校には1年生から5年生までの約100名の生徒たちが在籍しています。熱心な校長に加え、それと同等に教育に専任した教師がいます。

この地方には幼稚園や保育園のような施設がありません。ですから学校の生徒たちの中には、小さな弟妹とともに通ってくる子達もいます。兄や姉が学校で学び、これらの小さな子どもたちが校庭で遊んでいる間は、だれかが子どもたちを見守るという必要性も生じます。

ラジャスタンでは給食を、学校に通う子どもたちに無料で提供しています。それによって学校に通わせてもらえる児童の登録増加が期待できるからです。子どもたちの給食は一人の女性の手により栄養価の高い食事が提供されています。給食室は危険な害虫などから隔離され、清潔に保たれています。学校制服は、お金を節約するために、学校内で縫われています。多くの子どもたちは、通常、たった1組のぼろぼろの服しか持っていないからです。学校で準備することによって、子どもたちはきちんとした制服を着て、学校に通うことができるようになりました。

学校規定のカリキュラムでは、子どもたちはヒンディー語に加え、英語も学習しなければなりません。(共通語であるヒンディー語も、子どもたちが普段使っている現地語と大きく異なります。)ただし、先生たち自身も英語を教えるトレーニングを十分受けていません。

さて、これから到来する冬への季節の前に、子どもたちに一番必要なものはなんでしょうか？

この地方は夏の間は気温が40度を超えますが、12月、1月の冬の季節になると、気温は0度にまで落ち込みます。この極端な厳しい気候において、子どもたちに必要なのは命を守るための暖かな防寒具です。ジャケットやコートにあわせて、マフラーや帽子、ショールなど、子どもだけではなく、大人も例外ではありません。

語学習において、子どもたちにとって、絵本や挿絵のはいったシンプルな英語の本は大きな助けになります。こちらで手に入る利用可能な本は、子どもたちのニーズは全く考慮されていません。村の子どもたちにとってこれらの本は、共感することもなく、なにかを学べるということもなく、子どもたちの想像力に訴えかけるということもないのです。



また子どもたちが使う教育玩具についても同じ問題点があげられます。(そもそも、おもちゃはほとんど存在していません。)小さな学年の子どもにとって、楽しく学べ、役立つ教育玩具を揃えるということとはとても貴重なことです。『シブプーラ小学校』では、子どもたちに教師たちが自ら教育玩具を制作しています。

グラム・バラティ・サミティ

グラム・バラティ・サミティ (GBS) (農村地方開発のための共同体)は、インドのラジャスタン州で活動しているNGO団体です。GBSは、女性のエンパワーメント、保健医療、教育、環境プログラムを通じて生活環境の改善に努めています。その活動の中核は、多くの女性が自立して収入を得るためのセルフ・ヘルプ・グループ (SHG) の立ち上げをはじめ、女性のための起業支援、非営利の銀行による低利子のローンなど、女性の自立支援、生活向上などを行っています。これらの女性たちは、子どもたちの教育に熱心で、努力を惜しまないということも証明されています。GBSは国連経済社会理事会の特別の顧問にも就任しています。

皆さまからの寄付が子どもたちに確実に渡るように、SHGのマネージメントと銀行経営を担当しているサリータ・ヨーギさんらのチームが分配を管理します。

関連リンク(英語)

<http://www.gbsjpr.org/>

<http://hsh-rajasthan.de/>